

乳幼児運動発達支援研修会

H27.6.9

職種	参加人数
子育て支援センター保育士	15人
子育て支援センター指導員	5人
子育て支援センター所長	2人
臨時補助	2人
保健師	2人
無回答	1人
合計	27人

講義について		
とても良かった	25人	93.6%
良かった	2人	7.4%
まあまあ良かった	0人	0%
あまり良くなかった	0人	0%
悪かった	0人	0%

1. 講義のどんなところが良かった(または良くなかった)ですか？	
保育士	・今できていなくても、あとで「補えるんだよ」と伝えていくことの大切さが分かり勉強になりました。
	・乳児の発達に応じて、専門的に話しがあったので良かった。
	・ハイハイまでの過程の大切さがとても良く分かった。早寝・早起き・朝ご飯の大切さを栄養指導でも話していただき、子どもの成長に欠かせないものだ改めて感じた。
	・とても良い内容だったので、もう少しゆっくりお聞きしたかった。又、先生による指導の仕方を見たいと感じた(実技)
	・ハイハイの大切さとその根拠が大変分かり易くて良かったです。
	・発達段階で注意しなければいけないことや、体幹を鍛えるように導いていけるようにしていきたい。
	・写真を用いて、具体的に知らせてもらって良かった。後からでも運動発達の足りない所を補えるというのは、みんなにも伝えたいと思った。
	・運動面という所からの発達を図も交えて説明して頂き、とても分かり易かった。
	・赤ちゃんの発達に沿って、動き、援助の仕方など、分かり易かった。
	・私たちの活動が、地域親子を変えることができるという先生のお話で、自分の知識の中で本当に大切なことは何かを考え、整理し、関わりを持つ親子にきちんと伝えていきたいと改めて気づきましたし、感じました。
	・月齢、年齢に合わせたポイントが分かり易かったです。
	・画像や動画があり、分かり易かった。実際に事例がありイメージしやすかった。
	・昨年度、東松島市でお話をお伺いしましたが、2度聞く事でさらにしっかりと理論が理解できました。
	・先生のお話は2度目ですが、とても参考になります。聞く度に伝え方を見直せるので良かったです。
・資料が前回より増えていたこと。保健師さんとしては、どう指導してますかの問いかけに答えただけでなかったことが残念でした。奥ゆかしい方々には、もう一步踏み込んで聞き出して頂ければと思いました。正しい靴の選び方について、仙台のドイツのシューフィッターにいる店息子のため1~3歳位まで高かったけど足首まであるタイプの踵がしっかりした靴を履かせていたので、このお話は嬉しかったです。	
所長	・忘れかけていた抱っこの正しい仕方や、腹這い等、これからも伝えていきます。
	・分かり易く、子育て中のご夫婦に聞かせたいなと思いました。

指導員	・生後6か月の子で、お座りをさせようとしたり、歩行器に乗せている子がいて、まだ早いと伝えましたが、「なぜ？」というところで、うまく説明できなかったのが、今後はうまく伝えられると思った。
	・ハイハイによって、運動能力に違いが出る。歩くまでにいろいろな運動を行い、大切な時期であること。
	・新生児から乳幼児に大切である運動や体操が、どれだけ大切かを知る事が出来、今度の支援指導に役立てて行けたらいいかと思いました。今日の講義に参加させて頂いて、とても勉強になりました。
	・来所者の不安に思う相談がまさしくハイハイや寝返りについてだったので、自信を持って伝えていきたいです。
	・いかに小さい時の運動の積み重ねが必要かが分かった。
保健師	・乳幼児期に身体を動かす際の大人の関わり方(環境設定、見守りなど)が、とても詳しく分かりました。
	・発達の支援の仕方など、根拠が分かって、指導や相談のときに活かせると感じました。
臨時補助	・ハイハイは子どもの身体づくり、成長の根っこで土台！大人にもコアトレとして最適！
	・子どもの発達には、環境や親の心がとても重要。また、そこをフォローする私たちの役目も重要。
	・子育て支援業務に役立つ講義でした。

2. あなたの業務の中で役に立つ内容でしたか？

	子育て支援センター				市役所	無回答
	保育士	所長	指導員	臨時補助	保健師	
役に立つ	13人	1人	5人	2人	2人	1人
やや役に立つ		1人				
役に立てるのは難しい						
無回答	2人					

3. 研修を受けて、役に立った内容

保育士	・ハイハイや寝返りの大切さ、抱っこの仕方
	・ハイハイさせず、すぐ座らせるママ達を気にしていました。さりげなくこういうわけで、ハイハイが必要だということを今後自信を持って話していきたい。
	・利用者の中には、とにかく座らせる母親、立たせてしまう親が多く、うつぶせやハイハイの姿が少ない。うつ伏せ、ハイハイが大切ということを日々の活動の中で取り入れていき支援していきたい。
	・早い人では、1～2か月でセンターにつれてくる母もいるので、お座り、歩くまでの運動発達支援は、まさにドンピシャでした。
	・未満児(乳児)への対応や抱っこの仕方、アドバイスを保護者にする時の配慮ポイント。
	・運動遊びの具体例。C字抱っこの方法など。
	・支援していくという今の職場の立場から、親や子の成長を助けていくという明確な内容でとても良かった。
	・赤ちゃんの抱っこの仕方、発達段階。
	・乳幼児期のハイハイや運動の大切さを感じました。
	・とにかく”うつぶせ”ということ。”手を出しすぎているママ達が多いな”と思った。
	・遊び方(身体を使った遊び)、子どもの発達の順番。
	・0歳児の抱っこの仕方。2～3歳児の遊び方(グラグラ・バランスなど)
	・子どもの動きを制限している方が多い。
	・反り返りの強い子の扱いに困っている母への助言に役立ちました。(前回、東松島コミュニティセンターで講話をお聞きして実践していました。)
所長	・全てが役に立ちましたが、これまでの知識を再確認できたことと、この知識を子育て中の母親に伝え、共に子育てを楽しめるようにしていきたいと思います。
	・ハイハイの大切さ。

指導員	・抱っこのやり方。
	・講義の良かった内容と同じですが、早く歩けるようになる事が良いと思っていたので、段階を踏んで、確実に運動能力を鍛えて行く事が大切なのですね。
	・胎児と乳児の発達行動の関連について。子どもの成長に必要な運動や行動が分かり易くお話して頂いたこと。
	・ハイハイをしないというのは、その前の運動が足りない、または不足。 ・全てです。
臨時補助	・ハイハイ＝体幹トレーニング(アスリートも重要視している)。人の成長の根っこ。早めのうつ伏せ指導。
	・子ども1人1人の発達に合わせて、子どもの1つ1つの成長過程を見守る。その後につながることもなる。
保健師	・月齢にあった発達のチェック項目について。
	・発達を促す関わり方。
その他	・0歳から役に立つ情報が得られました。

4. 研修を受けて、今後どのように活かしていきたいですか？	
保育士	・センター利用者に伝えていきたい。講座等で活用したい。
	・小さいお子さんが多く、また育児の仕方をよく分からないお母さん方にとつとしたアドバイスができると思いました。
	・早く座らせようとしたり、5・6か月から歩行器を使用したり、それはおかしいなと思っても、なかなか伝える事は難しかったので、このお話を聞いたことで自信を持って伝えたり、お手伝いが出来ます。
	・支援センターの遊びはもちろん、保育園の保育の中でも生かしていきたい、赤ちゃん向けのサロンがあるので、伝えていきたい。
	・親の昔と今のおかれている現状をもっと把握して、先生のお話を活かしていきたいです。
	・親などに直接働きかけていきたい。
	・身体を使った遊びや、四つ這いになる経験を体験させたいと思います。(活動の内容に運動遊びを多めに取り入れていく)。ロコモ体操も行っています。
	・うつ伏せ推奨していきます。
	・子ども達と触れ合いながら、遊びを展開する手助けをしていきたい。
	・支援センター内でも親子の関わりで活かしていきたい。
指導員	・発達段階として必要だということを押せる。
	・うつ伏せを勧めることができたので、その後も継続して見てフォローしてあげたい。
	・ハイハイをしないで歩く子が多かったので、今からハイハイ遊びを取り入れていきたい。
	・子育て支援事業に赤ちゃんが来所する機会が多くあるので、母親と一緒にハイハイをしっかりとしていくよう支援していきたいと思いました。
	・成長していく過程での発達ポイントを観察し、発達支援のサポートをして行けたら良いと思っています。
臨時補助	・お母さんの様子をみながら重荷にならないように、やり直しができるんだというのを伝えていきたい。
	・実際にお母さん方へちょっとしたアドバイスができるかと思っています。
	・ハイハイが存分にできる環境を作ってあげたい。(フリースペースしかないので、走り回る子どもと別にできるスペースを作りたい)
保健師	・歩ける子どもにも、あえてハイハイさせるような運動時間を設けたい。(自分の子どももハイハイをあまりせず、すぐ歩いたので、今からでもさせたい)
	・親の目線を少し子どもの目線にうつして、子どもを見守り親の悩みにも目を向ける。
その他	・健診時のチェックポイントとして観察したり、保護者へのアドバイスに活用していきたいです。根拠を持って自信をもって保護者にお伝えできれば保護者への安心へも繋がると学びました。
	・健診場面や家庭訪問した時などに、お母さん達がやりやすい関わり方を伝えていく。家庭訪問や面接したときのアセスメントにも生かせると思う。
その他	・寝返り、反り返り、抱っこの仕方、ハイハイなど、毎日いろいろな相談があるので、資料を参考に伝えて行きたいです。

5. 日々の業務の中で、「乳幼児の運動発達」や「親子関係」等において、気になること	
保育士	・母親たちの言葉が乱暴。普通に話しても良いことをきつい言い方になっている。子どもへの影響が後で出てこないかと心配になる。
	・親子での触れ合い遊び、歌などの活動をして、話しが多く子どもと楽しむことが少ない。子ども同士で行っていることが多い。
	・スマホに子守をさせる母が気になる。
	・ダンス、体操、運動遊びに誘っても参加しない親子への促し方。
	・保育園児で「疲れるから嫌だ」と言って、鬼ごっこや登り棒を好まない子が増えている。
	・母親が育児ノイローゼやうつをわずらっているようで、相談事もアドバイスしても必ず言い訳されてしまうので、自分の中で深刻にならずにただ話を聞いてあげるだけでも良いかなと思っています。
	・仮設やアパート住まいが多い。その中で、子育てでマニュアルに頼りたい母が多い。先日の質問ですが、1歳6か月の男児で外が好きな子に対して「1日何時間外で遊ばせれば良いですか？」と聞かれた。母親は、どの程度遊ばせて良いか分からず、3時間も4時間も男児に付き合っ外にいたそうです。
・スマホを子どもに良く見せる。	
指導員	・子育て支援センターにくと、母親同士の会話になり、子ども達をみていない親がいることは残念に思います。
	・これと言った気になる事はありません。母親達の子育てに関する交流がよい感じに出来ていて良いと思いました。私たちの子育て支援センターを利用していただいている母親達は、子ども達をよ〜く観察していて、対応の仕方が早いと思っています。
臨時補助	・スマホをいじっていて子どもに感心を向けない親が多い。母親同士でおしゃべりをしている。
	・育児疲れか、子どもを遊ばせたまま、母親が寝ていることもあった。3か月の子どもを台の上に寝かせたまま、もう1人の子どもと遊んでいた。
	・何でもインターネットに頼る。親が親になりきれなくて、孤立している親もいる。親と子のコミュニケーション不足。子育てを大変と感じすぎている。(楽しむことも必要だと思う)
その他	・発達についての相談が多くなった気がします。